

04 比較

1 原級、as ~ as...

1 比較の文

big (大きい) や small (小さい)、long (長い) や short (短い) など、人やものの様子・状態を述べることばを「形容詞」といいます。また、well (上手に) や early (早く) など動作・状態の様子を述べることばを「副詞」といいます。

これらは単にそのことばを使って「～は…だ」「～は…に一する」と述べるほかに、他の人やものと比べて「AはBよりも～だ」「AはBよりも～に…する」と言ったり、ある範囲や集団の中で比べて「Aは～の中で一番…だ」「Aは～の中で一番…に一する」と述べることもできます。こうした言い方のとき、形容詞や副詞は、他の人やものと比べて述べる場合は「比較級」に、ある範囲や集団の中で比べて述べる場合は「最上級」という形に変化します。また、この変化した形を使って述べる文全体を、「比較の文」といいます。なお、形容詞や副詞を変化させない、もとの形を「原級」といいます。

では、まずその「比較級」や「最上級」の作り方を学んでいきましょう。作り方は、次のようになります。基本は、①のように原級に er をつければ比較級、est をつければ最上級になりますが、②～④のように語尾によって少し異なるものもあります。また、⑤のように不規則に変化するものもありますので、注意してください。

〔比較級・最上級の作り方〕

- ① ふつうは、原級 + -er, -est (例) old → older, oldest
- ② 語尾が e → 原級 + -r, -st (例) large → larger, largest
- ③ 語尾が 〈子音字 + y〉 → y を i にかえて -er, -est
(例) early → earlier, earliest
- ④ 語尾が 〈短母音 + 子音字〉 → 子音字を重ねて -er, -est
(例) big → bigger, biggest hot → hotter, hottest
- ⑤ 不規則変化するもの (例) good, well → better, best
many, much → more, most
- ⑥ more + 原級、most + 原級で変化するもの
(例) more beautiful, most beautiful

では、大体のところがわかったら、基本問題をこなしてしっかり覚えていきましょう。

基本問題

1 次の単語の意味を () に、比較級、最上級を.....に書きなさい。

- (1) long ()
- (2) short ()
- (3) old ()
- (4) new ()
- (5) young ()
- (6) tall ()
- (7) big ()
- (8) many ()
- (9) large ()
- (10) small ()
- (11) hot ()
- (12) cold ()
- (13) good ()

14分 詞

1 現在分詞

① 現在分詞の形と用法

関係代名詞では、主語＋動詞などが文の一部になって名詞を修飾する文の形を学習しましたが、ここで、今まで学んできた、名詞を修飾する英語の語句の形をまとめると、次のようになります。

- ① 〈名詞＋前置詞＋語句〉 the boy under the tree
(木の下の少年)
- ② 〈名詞＋不定詞＋語句〉 the boy to talk with
(いっしょに話をする少年)
- ③ 〈名詞＋関係代名詞＋語句〉 the boy that we know
(私たちが知っている少年)

このようになりますが、さらに加えて動詞を使って名詞を修飾する文の形があります。それは、「分詞」と呼ばれるもので、「現在分詞」と「過去分詞」の2つがあります。まず、「現在分詞」について学んでいきましょう。

現在分詞の形は、「動詞の ing 形」です。現在分詞は、すでに学んだように、be 動詞と結びついて進行形を作るほか、「～している」の意味で、下のようにな詞を修飾するのです。これを「現在分詞の形容詞的用法」と言ったりします。

〔進行形〕 The boy is reading a book. (少年は、本を読んでいます。)
be 動詞＋現在分詞

- ④ 〔形容詞的用法〕 the boy reading a book (本を読んでいる少年)
名詞 現在分詞＋語句

①～④の例文のように、後ろから前の名詞にかかるのが、日本語にはないところなので、その訳し方に注意してください。

Point 現在分詞の形 「動詞の ing 形」

現在分詞の形容詞的用法 → 「～している」の意味で名詞を修飾

② 現在分詞の形容詞的用法

現在分詞は、その後ろに意味の上でひとまとまりにつながっている語句を伴う場合は、修飾する名詞のあとに置かれます。つまり、下のように、〈名詞＋現在分詞＋語句〉という形になります。

the boy reading a book (本を読んでいる少年)
名詞 現在分詞＋語句

しかし、現在分詞がそのあとに語句を伴わず、単独で名詞を修飾する場合は、下の例文のように、その名詞の前に置かれます。これは形容詞が名詞を修飾する場合と基本的には同じ語順です。

that small cat (あの小さいネコ)
形容詞 名詞

a sleeping cat (眠っているネコ)
単独の現在分詞 名詞

ただし、a, the の冠詞や this, that, some, any などの語は現在分詞よりも前に置かれることに気をつけましょう。

Point 現在分詞の位置は、現在分詞が語句を伴うかどうかで違う

名詞＋現在分詞＋語句

単独の現在分詞＋名詞

また、関係代名詞のときと同様に、主語に現在分詞が語句をともなってかかる